

第1回 全日本 学生フォーミュラ大会 参戦記

国土舘大学チームリーダー
森本達也

Kokushikan Racing Team は「初心者」にとって乗り易い車を製作することを主なるコンセプトとしたので、低回転から高いトルク特性をもつ軽自動車用エンジンを採用した。その理由は何よりも運転しやすい車を目指したからである。これにターボチャージャを搭載することにより不足するエンジン出力の向上を図った。しかし、軽自動車のエンジンは他大学が採用している2輪用のエンジンに比べるとパワートレイン全体で約50kgの重量ハンデを負うことになる。このハンデを克服するために細かい部品にも軽量化を心がけた。その結果、完成した車両重量は280kgで昨年よりも約50kgの軽量化を果たすことができた。

全日本学生フォーミュラ大会の会場に到着した時に米国大会で味わった期待と興奮が蘇ってきた。不安が無かったと言えば嘘になるが、日本の大学同士が互いに全てを出し合い競い合う、その記念すべき第一回大会に参加できたということの興奮は大きかった。

日本大会の車検では、米国大会の車検を通過したという気持ちの余裕は捨てるべきであった。米国と日本のジャッジの判断する目は違うものであった。日本のジャッジは米国のジャッジとは違い細かい所まで安全に対する気配りをするという傾向が見られた。来年度の車検では他校も今年度の車検を教訓とし対策をしてくるであろうし、ジャッジの目も一層厳しくなると考える。

今回の結果は総合成績2位と私たちにとっては悔しい結果となった。しかし、競技部門8種目のうち3種目(デザイン、燃費、エンデュランス)を制覇することができた。最終的な成績はもちろんのことだが、最も重要なことは、この活動を通して技術の修得及び向上だと考えている。そのため車体及び構成部品の設計の適切さ、革新性、加

工性などが現役技術者に評価されて、デザイン賞で1位を取ることができ、私たちにとっては何よりも嬉しかった。また設計段階でFEMやCFDなどのCAE技術を効果的に活用していると評価され、CAE特別賞で1位を受賞したことも嬉しい結果であった。しかし、これらの結果に満足することなく来年に向けて一層頑張ることを皆で誓った。



車検のひとつであるチルトテスト。最高57度まで傾ける。

この日本大会で感じたことは初年度の参加大学の車両が非常に完成度の高い事であった。自分達の1年目を考えると驚くほど高い技術力を持っており、新しい技術、発想、知恵が多く盛り込まれていて今までの考え方を覆すものまでであった。そこから多くのことを学ぶことができた。これ以外にも多くのことを得ることができ、チームとしても人間としても成長できた気がする。また、同じ喜びや苦勞をしている「仲間」に大学の枠を超えて出会えたことは他に得がたいものである。そして、どのチームリーダーも同じような悩みや心配を抱えていて共に分かり合い助け合うことができた。メンバーには漏らせない弱みなども共有でき、今まであまり話したことの無い人でも昔から知っている「友達」のような感覚になり感動

できた。そして、この活動を通してできた「仲間」達を卒業しても大切にしていきたいと考えている。そして、将来日本の自動車産業を支える一員になりたいと強く感じた。

このようなすばらしい体験ができたのも3日間と言う短い間に1年間の全てを出し切る機会を与えてくれた大会があってこそである。大会主催者や大会スポンサーには厚くお礼申し上げます。また、この場を借りて苦しい時にいつも助けてくれたチームメンバー全員にお礼を言いたい。



チームメンバー集合写真 - 表彰式会場で -

